

研究のあしあと 5

令和 6 年度 久美浜小学校研究推進部

令和 6 年 12 月 24 日

11月21日（水）5校時 校内研究授業

「丹後の海はジオパーク」～私たちが守り伝える自然遺産～

6年生 授業者 川上 由希子

今回の研究授業は6年生の総合的な学習の時間で、「大地の学習」で体験したジオパークについて、自分が興味を持った内容をより深く調べ、自分なりの課題を見だし、それを解決するための方策を考えていきました。

本時は、第二次の整理分析で、これまで行ってきた調査やインタビューから得られた情報を整理し、自分が思うジオパークの魅力や課題、追求したいことについて考えるところです。1時間の中で、子どもたちがどのように整理の方法や手段を考え決定していくのか、そして魅力や課題を見出し、自分の言葉でまとめていくのかに注目しました。また、教師はどのように動き、子どもたちと関わっていくのか、教師の役割も学びました。

研究主題とのかかわり

ジオパークとは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産や地形景観のふくむ一種の自然公園である。子どもたちが住んでいる山陰海岸ジオパークは、世界ジオパークに認定されている。しかし、当たり前のように過ごしてきた自分たちの地域が、歴史も深く、大変珍しい貴重な地形等であることをあまり知らない。そこで、ジオパークの保全活動やガイド活動、地形等について調べ、丹後の自然に関心をもったり、それを守ろうとする人々の思いに触れたりすることを通して、児童一人一人が丹後の魅力について感じることができるようになる。また、少子高齢化や地球温暖化が進む現代社会において、そうした取組が抱える課題や魅力ある丹後の自然遺産を守り続けるために、SDGsの視点を持ちながら地域のために協力できることがないか、考えていこうとする気持ちを育てる。



事前研究会① 11月6日（水） 司会 佐藤 記録 岡田

事前研究会①では、授業者から、単元内自由進度学習・時間内自由度進度学習の構想として、これまでと違った指導案の形を「総合的な学習の時間学びプラン」として示し、学習全体の流れを検討した。

この単元の中で、児童が主体的に活動するための具体的な手立てとは何か、自分の思いを生き生きと表現できている姿は具体的にどんな姿かを、全教員が考えるきっかけとなった。

授業者の考え

① 主体的にするために

- ・毎時間学びの手引きを示す。
- ・毎時間の自由進度、数時間の自由進度等、子どもたちに委ねる時間を確保する。

② 生き生きと表現とはそのような姿、どのような内容

- ・グループや個人で交流している姿から見取る。（自分らしく授業に臨めているか）

また、協議では、そもそもジオパークというものが、子どもたちにとって馴染みが薄く、目的意識を持つことが難しいのではないかという意見があった。考えを出し合った結果、「学んだことが、子どもたちにもっと身近に感じられるようになること」が大切だということにまとまった。そのためには、実際の体験と、インターネットや文献から得た情報を比べたり、自分と他者の感じ方の共通点・相違点を確かめていったりすることが大切だと感じた。

事前研究会②では、授業者から、本時の目標や展開について具体的に説明した。

○情報収集の系統性

1 時間の中での探究のサイクルなので、情報収集の捉え方が、第一次の情報収集とは違ってくるので、子どもたちに丁寧に説明して進めているということでした。

- 第一次の情報収集：教科書・インターネット等から必要な情報を抜き出す。
- 第二次の情報収集：情報を整理するための方法を考える。（その思考ツールを使うと情報を整理しやすいか。）

○ループリックの検討

○協働についての考え方

情報収集の仕方（思考ツール）が決まってしまうと、協働の場面が少なくなると予想されるが、どのような仕掛けが必要か。→本時で協働する場面が少なくても、単元内でその場面が作れていればよい。協働するかしないのかも子どもたちが判断し、学び方を選択していくことが大切。

授業を終えて 授業者より

○本学級には様々な特性のある児童、学習スピード・興味関心の異なる児童が在籍している。そこで、一人一人に合った学び（学習者主体の学び）を展開するために、単元内自由進度学習（自己調整学習）に取り組んできた。

○様々な教科学習や児童会活動、学校行事においても、社会に出たときに役立つ力をつけることを念頭に、単元内自由進度学習の手法を活用し取り組んできた。

○単元内自由進度学習を行う際に留意していることは次のとおりである。

- ・児童一人一人の思い・願いの実現を第一に展開する。
- ・大切なことは一斉指導で、任せられる時点で大枠を示した上で委ねていく。
- ・他者参照を通じてコメントを寄せ合うことが、深い学びが促進される環境となる。
- ・めあてを達成するために児童自ら思考ツールを選択できる力を身に付けさせている。
- ・情報収集の際、目的意識・相手意識が意識できるように働きかけている。コピペで終わらせない。
- ・家庭学習について…自己分析して自分に必要な学習を進められたら（まだ先の話かな～）

自分で学習を進めることに不安な児童もいる。

- ・各教科の見方・考え方を働かせることで、総合で扱う社会課題の解決に各教科の学びを生かす。本授業においては、国語、社会、理科等の学びが発揮できている姿が見られた。その姿を見取り、価値づけ・広めていくことが指導者の一番の役割である。



協議会を終えて ～協議会を終えての参観者のまとめ～ 抜粋

○授業の内容もそうだが、それまでの人間関係作りや思考ツールの利用の仕方やその価値づけ等、これまでの指導のプロセスについての興味が湧いた参観となった。子どもたちが当たり前のように自分で最適だと考え

た思考ツールを用いたり、学習形態を選択している様子に感心させられた。

○学び方を自由に選択させるスタイルでの授業を見せていただきました。個別、ペア、グループとさまざまでしたが、それぞれが同じ目的に向かって学んでいる様子が見られました。目的意識を全体でしっかり確認して学びに入っておられるのだということが分かりました。思考ツールについて、児童同士で「どれ使おう」「今回の情報量ならクラゲでいいんじゃない？」といったやりとりをしていました。それぞれの使い方を知るだけでなく、場合に応じてそれを選択し活用していくことができるように積み上げていくことの大切さを感じました。

○指導者側の意識として、何を学んで欲しいのか、子どもがどんな思考をするのかを予想しながらというのも必要ではないでしょうか。

○今日の授業でいうと、まとめ方に対する、「もっとこうまとめた方がいいんじゃない？」など、教える教えられるだけではなく高め合うことがあってもよかったのではないだろうか。仲良しだからではなくあの子と学んだら分かるようになる、等本当の目的達成を目指すにはどうすれば良いか→授業だけでなく学級経営の一つとして。しかし、子供も教師もそのことを分かった上で打破できない。

○「情報収集、整理・分析、表現・まとめ」のサイクルは分かりますが、当然のことながら、一つ一つの活動がとても難しく、どの程度を子供達に求めていくかが重要だと思いました。また、高学年における探究的な学びの姿を目指して、低学年からどんな力、どんなスキル、を積み上げていくことが大切なのか、また、学級経営を含めてどんな環境づくりが大切なのか、協議を積み重ねていかなければならないと思いました。

次年度に向けて～6年生の授業から学んだこと～

生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成するために

○探究課題の設定

- ・学んだものが身近なものとなり自分と生活・地域・社会が最終的に繋がっていくと感じられる教材・課題を設定していく。そのために、久美浜や京丹後市にある魅力や課題を指導者側がつかんでおく。
- ・これまでの見方・考え方が変わる。または選択肢が増える・多面的に見ることができる教材・課題を設定していく。そのために、友だち・家族・地域の人や、他の地域の人等、いろいろな年代や立場の人の思いを聞く。
- ・相手意識を持たせる。誰に伝えたいかを考え、設定する。

○授業中の教師の役割

- ・必要なことは、一斉できちんと押さえる。
- ・学びの手引きの提示をする。(1時間の中の学習の進め方)
- ・ルーブリックの提示をする。(到達点を示しておく。)
- ・一人一人の進行状況をつかみ、アドバイスしたり、一緒に考えたりする。

○その他

- ・掲示物:これまでの学び・学び方(探求のサイクル・思考ツール等)の蓄積をする。
- ・安心して学べる人間関係・環境作り(学びの土台)を授業で作っていく。